

第 36 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 8 回社会教育委員会議	
開催日時	令和 7 年 11 月 6 日 (木) 午後 2 時～午後 4 時
会 場	クロスパルにいがた 4 階 401・402 講座室
出席者	<p>【社会教育委員】 江口 和美、小倉 壮平、木村 いほ子、佐藤 裕紀、司山 園美、白神 道子、羽賀 万起子、長谷川 雅朗、山岸 則子 計 9 名 ※敬称略</p> <p>【事務局】 中央図書館長、生涯学習推進課長、生涯学習推進課職員 6 名、 計 8 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項 第 25 回新潟県社会教育研究大会新発田大会 参加報告 ○報告資料 1 に基づき、羽賀委員より参加報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>3 意見交換（グループワーク） ○資料 1～3 に基づき、事務局より建議の策定スケジュール、構成と分担及び文言統一ルールについて説明しました。</p> <p>○建議の第 6 章として「社会教育委員の相互インタビュー」を掲載するか、掲載する場合の実施予定について意見交換を行いました。 【主な質問・意見等】 ・相互インタビューの主旨としては、委員一人一人の専門性・経験・問題意識を建議に反映させることができる ・建議は合議体としての公式な提言であり、個人の意見やインタビューを掲載することには違和感がある ・報告書であれば理解できるが、建議の性質とは異なるものになるのではないか ・個人名や発言が前面に出ることで、建議全体の統一性や公的性格を損なう懸念がある ・委員の考えや経験が何らかの形で次期委員や事務局に引き継がれることになるので良いが、建議とは別の方法でまとめても良いのではないか →意見交換を踏まえ、「相互インタビューは建議には掲載しない」と整理された。 なお、委員の問題意識や意見については、建議本文の中で反映させるとともに、必要に応じて別の形でまとめることが望ましいとの認識が共有された。</p> <p>○各グループに分かれて建議策定のための意見交換を行いました。 【主な意見交換内容】 【A グループ「こどもの多様な居場所づくりのための社会教育人材ネットワーク】 ・建議はこどもの居場所を共通の軸として、社会教育が果たすべき役割や課題について書くことを再確認した ・こどもを中心にした地域づくりの中では、学校教育と社会教育は相互に連携していく必要がある</p>

<p>内 容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の地域展開が大きな社会的転換点であるため、これを契機として「部活動」「アクセス」「費用（お金）」「人材」「社会教育施設」の5つをテーマとし、各委員で分担割をした</li> <li>・建議全体をつなぐ導入・前書き部分の執筆を副議長が担当し、各原稿を統合することで、建議全体で一体性を確保する</li> <li>・少子化や学校統廃合の進行により、居場所である社会教育施設や活動場所への物理的・経済的アクセスの困難やそれを支える人材不足が深刻化している</li> <li>・PTA や自治会、民生委員など地域活動の担い手が減少し、現役世代が地域に関わる余裕を持ちにくくなっている</li> <li>・各委員が担当テーマについて現状と課題、社会教育施策に求められる配慮や要望を盛り込んだ原稿を作成する</li> </ul> <p>【B グループ「生涯学び活躍できる社会教育人材ネットワーク」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各視察内容についての内容共有を行った</li> <li>・視察を通して、活発に活動されている方は、自身で解決に向けて人を見つけて声をかけているためネットワークの必要性をあまり感じていないことが分かった</li> <li>・アンケートの結果からも、ネットワークのニーズは行政職員の方にあるように感じられた</li> </ul> <p>(異人池建築図書館喫茶店)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築・カフェ・図書館的機能を併せ持つ施設であり、居場所の機能や、図書を紹介して世代や分野を越えた偶発的な学びが生まれている</li> <li>・自身の課題意識や理念に基づいて、必要に応じて自ら人とつながりながら活動されている</li> <li>・自発的な活動で困りごとでも解決できるためネットワークの必要性はあまり感じられないとのこと</li> <li>・街全体を社会教育の場と捉える発想が印象的であった</li> <li>・行政の評価基準が「人数」など量的指標に偏りがちなことや、民間の柔軟な発想が制度に十分生かされていない現状が課題として挙げられた</li> </ul> <p>(イツモノトコ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引きこもりや不登校支援を通じて、社会教育が必要な人に届いているかという課題が挙げられた</li> <li>・支援人材の不足、後継者問題、支援する側と必要とする側の年齢差による関係作りの難しさなどといった活動を続ける上の課題があるとのこと</li> <li>・社会教育のまさにど真ん中の活動をされているが、ご本人にはその意識があまりないようであった</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究のテーマを決めた背景を振り返り、どのように建議をまとめるか認識を再共有した</li> <li>・会議での講話、小委員会でヒアリングした活動事例2件、視察でヒアリングしたの活動事例3件及びアンケート結果について、執筆分担を決めた</li> </ul> <p>4 その他</p> <p>○事務局より、令和7年度新潟市二十歳のつどいの来賓についてご案内しました。</p> <p>○事務局より、新潟市若者の意識と生活に関するアンケート調査について協力依頼しました。</p>
------------	---

第 36 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

	<p>○事務局より、第 9 回・第 10 回会議の日程調整及び第 37 期改選について連絡しました。</p> <p>5 閉会</p>
傍聴者	0名
会議資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 36 期新潟市社会教育委員会議（8 回）次第</li> <li>・報告資料 1 第 25 回新潟県社会教育研究大会新発田大会 参加報告</li> <li>・資料 1 第 36 期建議策定スケジュール（案）</li> <li>・資料 2 第 36 期建議の構成と分担等（案）</li> <li>・資料 3 第 36 期建議文言統一のルール（R7.11.6 現在）</li> <li>・（資料番号なし）令和 7 年度新潟市二十歳のつどいの開催について</li> <li>・（資料番号なし）新潟市若者の意識と生活に関するアンケート調査について</li> </ul>